

台湾高雄市大樹區観光プロモーション

「大樹」同志の交流が進んでいます。台湾高雄市大樹區（以下「大樹區」と大樹町は、同じ「大樹」の名が縁で民間レベルの交流を進めてきました。平成23年に10名、昨年10名が大樹區を訪問、平成24年柏林公園まつりに大樹區から黄區長以下17名が来町し、昨年大樹町日台親善協会が設立されるなど交流が深まっています。

このような中、地方創生先行型交付金事業として、本年5月開催の高雄市大樹區パイナップル・アンド・ライチまつりに参加し、大樹町の産物を持ち込んでPRする観光プロモーション事業を初めて実施することとしました。

これまで民間主体で大樹區との交流を深めておりましたが、将来的に経済文化、スポーツ、子ども交流などいろいろな分野での交流を図りたいと町が予算を計上、商工会、農協、漁協の各青年部にまつりへの参加を呼びかけたところ、時節柄厳しい中、商工会青年部6名、日台親善協会（福岡孝道会長）会員6名、役場商工観光課2名が5月22日から25日3泊4日の日程で参加してきました。

おまつりへ持ち込むのはカマンベールチーズ、ストリングチーズ（ともに雪印メグミルク大樹工場提供）、時鮭のチャンチャン焼き半身20枚、昆布試供品（広尾漁協提供）、子ども用にヨロヨロも。全て手荷物で段ボールや発泡で10箱ほどを持ち込み、千歳空港から高雄空港へ。

約4時間のフライトで午後11時30分高雄空港に到着（時差1時間、現地時間）、台湾政府が日本の輸入品に産地証明を

必要としていたので、不安でしたが何事もなく通過、到着ロビーでは深夜にもかかわらず大樹區の黄（おう）區長夫妻はじめ大樹區公所（役場）の方々に迎えていただき感激しました。雨不足だった大樹區は、この日から梅雨が始まり、強い雨が降っていました。



高雄空港で歓迎を受ける
左2人目李課長、10人目黄區長、8人目區長夫人

翌日は大樹區公所農業課李（り）課長が随行。高雄市の大学生2名（蘇さん、陳さん）に通訳として同行していただき、農友種というパイナップルなどの種苗を生産している会社や、ライチを収穫している農家などを視察しました。午後からいよいよよまつり会場へ、幅約10m、長さ100m程のD型トンネルの両側に出演ブースが並び、ライチやパイナップルの他、饅頭や蜂蜜など地場産品を販売、私たちもテーブル2つ4m程のブースで準備開始、ビスケットにカマンベールチーズを乗せ、ストリング

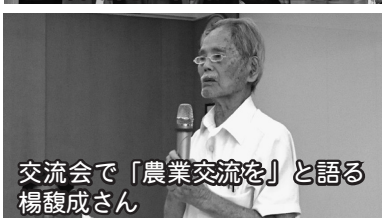


チーズを細く割り、ガスコンロに鉄板を乗せ時鮭と野菜を切って午後3時の開会を待ちました。まつりの来場者は日本からやってきたブースに興味深々、周りは既に人だかり、ブースの後ろでは子どもたちにヨーヨーを配るため強い雨（時折スコール）の中、商工会青年部員がずぶ濡れで準備、まつりが始まるとチーズ、チャンチャン焼き、昆布を求める人々で長蛇の列、初めて食



まつり会場、アーチ型テント

べる（と思われる）日本の食品に笑顔でウンウンと頷き、中には日本語で「おいしい」、「売りものはないの?」、「高雄市のどこで買えるの?」という人もいて気に入った様子。陳菊高雄市長もわざわざお越しになり、チーズとチャンチャン焼きを試食しました。トンネル横の広場にはステージが設置され、色々な演技や表彰などが行われており、その中で福岡会長、安田副会長他が紹介され、陳菊市長に大樹町長からの親書を手渡すセレモニーも行われました。



全て捌ききり会場を後にしました。宿泊しているイーダロイホテル（義大皇家酒店）で、大樹區による歓迎レセプションが行われ、黄區長はじめ議会議員、里長（區内に18ある里、大樹區の下位行政区画）公所職員ら30名ほどが出席。高粱（こうりゃん）酒で台湾式乾杯、持参した地酒「十勝晴れ」（帯広信金大樹支店提供）などで大いに盛り上がり懇親を深めました。翌日は昼食時に、竹寮山観光酒廠

台湾 大樹區ってどんなところ？

友好親善が深まっている台湾大樹區についてご紹介します。

- 位置 大樹區は台湾南部、高雄市の西南部に位置します。
- 面積 66,9811km² (大樹町の12分の1、以下 () は大樹町との比較)
- 人口 43,237人 (約7.5倍)
- 気候 亜熱帯気候で平均温度は、2月が摂氏18.6度 (-7.4度)、6月が摂氏28.7度 (14.5度) で、平均湿度は、年間で3月60% から8月81%の間です。平均年間降水量は1,134mm (1,025mm) です。雨は、12月が最も少なく、台風シーズンの6月から8月に月別の最大降水量を記録します。
- 歴史 1914年台湾総督府の日本人技師飯田豊二が設計して建造した下淡水溪(かたんすいけい)鉄橋(別名高屏(こうへい)旧鉄橋)が開通しました。全長1,526mのこの橋は、竣工当時アジア最長、「東洋一の橋」とされ、現在は天空歩道として保存されています。2014年9月6日開通100年記念式が行われ、大樹町から10名が参加しました。式典で下淡水溪鉄橋の模型を贈られ、役場ロビーに展示しています。
- 産業 毎年5月下旬にライチ&パイナップルまつりが開催されるほどライチ、パイナップル生産が盛んで、ライチは台湾の8割を生産しているといわれています。



(鈴なりのライチ) 日本では完熟採れたてはなかなか味わえない

台湾高雄市大樹區観光プロモーション参加者

(大樹町日台親善協会) 福岡孝道、安田清之、石山新一、三木俊昌、寺嶋誠一、安田信子
 (大樹町商工会青年部) 阿部嘉孝、一戸勉、杉村聡、播間淑晃、柿本聡史、重松和希
 (大樹町商工観光課) 黒川豊、藤谷満伸

の楊豊茂会長、沖縄出身楊成さんを招き、黄区長ほか公所職員を交えて交流会を行いました。

竹寮山観光酒廠は、観光農園の他、世界一の高梁酒、ワイン、梅酒、ウーロン茶などの飲料を製造、日本にも輸出しています。楊会長は「農産物を加工して商品にすることに取り組んでいる、パイナップルの皮は捨てられるが酵素が取れ、酒の原料になる」と話しました。

楊成さんは沖縄出身、24歳まで日本人だった。現在94歳、「無農薬栽培を続けてきた、5年前から沖縄に行き来している。日本で学んだ教員は北海道出身だった。植物が元気なら病害虫はない、農業に関わりたい」と話しました。

大樹町メンバーから「肉料理が多いようだが魚は好むか」、「高齢者介護の状況は」、「ライチまつりの実施主体は」など質問があり、盛んに意見交換が行われました。

交流会の後、大樹區を離れ高雄市中心街のホテルに移動、大樹區公所により「お別れ会」が開催されました。

黄區長はいさつで「友好都市になれば文化面など広く交流したい、いざ大樹町長が来てくれることを楽しみにしている」と話しました。

福岡会長は「今回は大変お世話になりました。大樹の物産を持ってこれて良かった。區民の皆さんに喜んでもらえて手応えを感じた。また来たいと思うのでその時はよろしくお願いします。」と応えました。

翌朝は4時集合、大樹區公所の李課長が見送りに来てくれました。(最初から最後まですっかりお世話になりました。高雄空港から台北空港、千歳空港、バスで大樹へ移動とハードスケジュールでしたが、皆無事に帰省しました。)

阿部嘉孝大樹町商工会青年部長は、「大樹區の方々にはとても熱烈的な歓迎をして頂き感動した。商工会青年部から6名が参加したが、今回のプロモーションで大樹町の生産物が、台湾で広く受け入れられるような手応えを感じた。次回は農業、漁業の青年部も交流だけではなく、ビジネスチャンスを探す意味でもぜひとも参加して欲しい！」と感想を述べました。

初めての観光プロモーションは、このように大樹區のお世話になりながら、まつりの出展も大盛況で今後の取り組みに手ごたえを感じるとともに、収穫の多い事業となりました。



今回のメンバー農友種前で
 右前一人目農友種の方、二人目李課長、
 左前一人目陳さん、二人目蘇さん